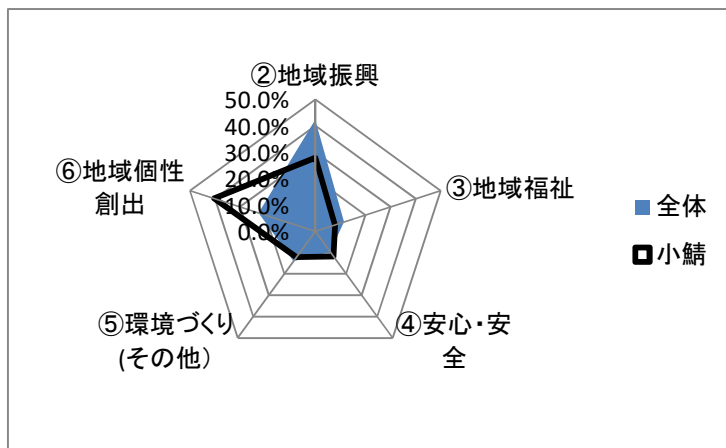


小鯖地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和5年度)

■地域の情報

地域人口	4,041人	自治会数	23
世帯数	1,658世帯	自治会加入率	86.9%

※数値は、令和6年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,518,000 円
交付金決算額	6,905,326 円
その他収入	320,026 円
交付金決算額／配分額	91.9%

各分野の決算

①協議会運営	4,863,542 円
②地域振興	658,788 円
③地域福祉	185,921 円
④安心・安全	277,992 円
⑤環境づくり(土木工事)	円
⑤環境づくり(その他)	286,526 円
⑥地域個性創出	952,583 円
決算総額	7,225,352 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地区住民および各種団体が連携・協力して、自然豊かで安心して住み続けられる地域づくりを進める。

■総括

第4次地域づくり計画の初年度は、分野別の地域の課題を事業として捉え、協議し発信するために各部会は事業の中心的活動実行部隊ではなく、課題解決に向けた協議を部会内外からの支援者も含めて推進することを大きな目的の一つとして進めた。恒常的な事業も進めながら、助け合いの仕組み事業に取り組むため委員会として発足した。生活の安全を図るため空き家対策を継続し、また、伝統文化継承は、地域の関心度を高めつつ今後の具体的な進め方に注力した。さらに地域福祉交通対策は、関係機関を含め協議が進展した。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局費(事務局人件費、事務費、通信費等)
② 地域振興	地域文化継承、デジタル化推進、広報誌発行
③ 地域福祉	ボランティア福祉タクシー検討、生きがいづくり支援、見守り配食支援、助け合いの仕組み活動、小鯖地域敬老会、子育てサロン支援
④ 安心・安全	生活安全・防犯対策、交通マナー向上維持推進、小鯖っ子見守り隊活動、挨拶運動推進、自主防災活動推進、災害発生防止・避難時必要資材充足
⑤ 環境づくり	有害鳥獣対策、野良猫対策、地域環境整備(萩往還道、鳴滝公園河川親水プール)
⑥ 地域個性創出	小鯖夏まつり、小鯖ふるさとまつり、地域複合拠点施設設置検討、大内・小鯖教育圏地域教育支援、さばろっち活動、里の駅推進、スローガン張替

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	小鯖これからプロジェクト地域活動補助事業	決算額	658,788円
	目的	第4次小鯖地域づくり計画の初年度にあたり、新たに分野ごとに取り組む事業を抽出し計画を立てて進める。また、農山村にぎわい計画による複合拠点施設について、検討委員会の設置に向けた基盤づくりを行う。		
	実施内容	令和5年度事業及び部会活動を検証し、次年度へ反映を行う。また、地域複合拠点施設設置に向けた足がかりとなる説明会を開催した。		
	実施時期	令和5年度事業及び部会活動の検証(3月)地域複合拠点施設説明会(通年)		
	参加人数	令和5年度事業及び部会活動の検証(16人)地域複合拠点施設説明会(延べ70人)		
	成果	新編成後の各部会の成果の確認を行った。地域複合拠点施設について、関係役員、地域住民代表等へ説明を行った。		
	評価	各部会の事業が、年度を超えて引き継ぐ課題となっていることを認識しながら進めていく。 地域複合拠点施設について、令和6年度に向けた準備が出来た。		
	今後に向けて	地域づくりにおける各課題は、継続しているものが多いため部外有識者も加え検討を行うとともに段階的に進めていく。また、地域複合拠点施設検討に向けて、検討委員会を設置し意見集約を目指す。		
②	事業名	高齢社会に向けた施策	決算額	185,921円
	目的	高齢化社会に向けて、地域住民・家族への具体的サポートや知識の向上、地域の助け合い等の支援が出来る環境づくり。		
	実施内容	高齢者生きがいセンターを利用したさばろっち交流広場活用のPR活動、助け合いの仕組み事業としてゴミ出し支援の開始等		
	実施時期	「さばろっち交流広場」常時開設。助け合いの仕組み事業10月から開始		
	参加人数	「さばろっち交流広場」の利用者は、約280人／年。助け合いの仕組み事業については、支援ボランティア33人		
	成果	「さばろっち交流広場」の利用者は、減少傾向ではあるが新たな講座を設け持ち直している。助け合いの仕組み事業については、支援ボランティア33人の登録があった。		
	評価	「さばろっち交流広場」は、様々に講座を開設され利用者の生きがいとなっている。助け合いの仕組み事業については、現在支援依頼者は、2人だが地域の高齢者対策の一環として感謝されている。		
	今後に向けて	「さばろっち交流広場」については、継続して活動するとともに関連団体等との共催等様々な交流ができるよう支援が必要。また、助け合いの仕組み事業については、支援者の意識の向上、増員できるよう進めるとともに依頼者のニーズに答えていけるよう検討を重ねる。		
③	事業名	地域安全対策・災害対策事業	決算額	277,992円
	目的	空き家対策及び自主防災の各種研修・訓練等を通じ、住民の生活安全及び防災意識を向上させる。		
	実施内容	空き家対策については、空き家調査や研修を実施。災害対策としては救急救命蘇生AED使用法訓練の実施。		
	実施時期	空き家対策：研修8月22日、空き家調査8月～11月 調査結果説明12月2日 災害対策：救急救命蘇生AED使用法訓練10月22日		
	参加人数	空き家対策：23地区自治会長 災害対策：救急救命蘇生AED使用法研修75人		
	成果	空き家対策：調査戸数約1900戸 空き家としての確認124戸 災害対策：研修の実施において、例年より多くの参加があった。		
	評価	空き家対策：空き家の現状を認識し、各自治会で情報共有を行うことが出来た。 災害対策：研修には、消防団員35名の参加もあり地域住民と消防団員との訓練を行えた。		
	今後に向けて	空き家対策：今後も書く自治会や関係機関と連携を行い進めていく。 災害対策：今後も地域住民を対象にした避難所開設訓練等を行い防災意識の向上に努める。		